

# 暫定リストの近況

東京大学大学院教授 西村幸夫

## これまでの経緯

日本の世界遺産暫定リストのうち、文化遺産については、文化庁内に設けられた「世界文化遺産特別委員会」で、2006年度より追加改定作業が行われてきた。

初年度は地方公共団体から提案があった24件のうち4件(表1上段の4・6・7・8)が選定され、翌年暫定リストに登録された。2007年度には新たに13件が提案され、前年度からの再提案19件(「青森県の縄文遺跡群」と「ストーンサークル」が「北海道・北東北の縄文遺跡群」として一体化されたため、1件減少)とあわせ、計32件が候補に挙げられた。

世界文化遺産特別委員会は、主題別に四つのワーキンググループを設置。提案案

表1 日本の世界遺産暫定リスト (2008年10月現在)

no.	提案名	都道府県	暫定年
すでに暫定リストに載っている物件			
1	古都鎌倉の寺院・神社ほか	神奈川県	1992年
2	彦根城	滋賀県	1992年
3	平泉の文化遺産 (2006年12月26日にWHCに推薦書を提出。2008年の審議では見送りに)	岩手県	2001年
4	富岡製糸場と絹産業遺産群	群馬県	2007年
5	小笠原諸島	東京都	2007年
6	長崎の教会群とキリスト教関連遺産	長崎県	2007年
7	飛鳥・藤原の宮都とその関連遺産群	奈良県	2007年
8	富士山	静岡県・山梨県	2007年
9	国立西洋美術館本館 (7カ国のル・コルビュジエ建築23件の一括登録を目指し、フランスが2008年1月に推薦書を提出予定。2009年の登録を目指す)	東京都	2007年
新たに暫定リスト入りする物件			
1	北海道・北東北の縄文遺跡群	北海道・青森県・岩手県・秋田県	
2	金と銀の島、佐渡 一 鉱山とその文化一	新潟県	
3	百舌鳥・古市古墳群 一 古墳群を以てした巨大古墳群一	大阪府	
4	九州・山口の近代化産業遺産群 一 非西洋世界における近代化の先駆け一	福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・鹿児島県・山口県	
5	宗像・沖ノ島と関連遺産群	福岡県	

表2 暫定リストに提案されている物件 (2008年10月現在)

no.	提案名	都道府県	提案年
文化遺産候補			
1	北海道東部の窪みで残る大規模竪穴住居跡群	北海道	2007年
2	最上川の文化的景観 一 舟運と水が育んだ農と折り、豊かな大地一	山形県	2006年
3	松島一貝塚群に見る縄文の原風景	宮城県	2007年
4	水戸藩の学問・教育遺産群	茨城県	2007年
5	足尾銅山 一 日本の近代化・産業化と公害対策の起点一	栃木県	2007年
6	足利学校と足利氏の遺産	栃木県	2007年
7	埼玉古墳群 一 古代東アジア古墳文化の終着点一	埼玉県	2007年
8	近世高岡の文化遺産群	富山県	2006年
9	黒部・立山 一 防災大日本国のモデル一 信仰・砂防・発電一	富山県	2007年
10	城下町金沢の文化遺産群と文化的景観	石川県	2006年
11	雲峰白山と山麓の文化的景観 一 自然・生業・信仰一	石川県・岐阜県・長野県	2006年
12	若狭の社寺建造物群と文化的景観 一 神仏習合を基調とした中世景観一	福井県	2006年
13	日本製糸業近代化遺産 一 日本の近代化をリードし、世界に羽ばたいた糸都岡谷の製糸遺産一	長野県	2007年
14	善光寺と門前町	長野県	2006年
15	松本城	長野県	2006年
16	妻籠宿・馬籠宿と中山道 一 「夜明け前」の世界一	長野県	2006年
17	飛騨高山の町並みと祭礼の場 一 伝統的な町並みと屋台祭礼の文化的景観一	岐阜県	2006年
18	天橋立 一 日本の文化景観の原点一	京都府	2007年
19	近世岡山の文化・土木遺産群 一 岡山藩郡代津田永忠の事績一	岡山県	2007年
20	三徳山 一 信仰の山と文化的景観一	鳥取県	2006年
21	萩 一 日本の近世社会を切り開いた城下町の顯著な都市遺産一	山口県	2006年
22	錦帯橋と岩国の町割	山口県	2006年
23	山口に花開いた大内文化の遺産 一 京都文化と大内文化の受容と融合による国際性豊かな独自の文化一	山口県	2007年
24	四国八十八箇所霊場と遍路道	徳島県・高松県・香川県・愛媛県	2006年
25	宇佐・国東 一 「神仏習合」の原風景一	大分県	2006年
26	阿蘇 一 火山との共生とその文化的景観一	熊本県	2007年
27	竹富島・波照間島の文化的景観 一 黒潮に育まれた亜熱帯海域の小島一	沖縄県	2006年
自然遺産候補			
1	琉球諸島	沖縄県	2003年

件の総合的評価や、主題が共通する資産の比較・統合に關しても専門的な議論を行った。4グループとは、「旧石器・縄文時代を除外」・「中世・近世期の文化遺産」・「近代の文化遺産(中世・近世期の産業遺産を含む)」・「時代を超えて、人と自然との関わりを中心とする遺産」である。

審議中、UNESCO世界遺産委員会が平泉の提案が登録延期になるといふ事件があり、審査が厳格化する傾向に配慮して慎重な審議を重ね、9月26日に特別委員会の意見をまとめ公表した。

新規に暫定リスト入りする物件

32件の候補のうち、顕著な普遍的価値を有するとされたのは以下の5件である。

一つは、「北海道・北東北の縄文遺跡群」。1万年もの間、縄文文化が平和的に存続した点が評価された。ただし、この地域に限定されないため、名称の再検討が課題と

なった。「佐渡」は石見銀山より導入した灰吹き法の技術がこの地で確立し、花開いた点で評価が高く、石見銀山の拡大・統合を検討すべきとの意見が強かった。「九州・山口の近代化産業遺産群」は、明治維新からの近代工業化が世界にも類のない速さで達成された点が着目されたが、対象地域が広大で資産も多様なため、候補資産の絞り込みなど、さらなる検討が求められた。海の正倉院と称される「宗像・沖ノ島」は、神の島としての信仰と禁忌が現在も生きる貴重な例証として評価された。また、大仙(仁徳天皇)陵古墳に代表される「百舌鳥・古市古墳群」は、世界の古代国家の巨大遺跡群に比肩できるとの評価を得た。だが、多くが宮内庁管轄下にあるため、両庁の緊密な連携と調整を望む声が高かった。

以上5件は、今後、関係省庁連絡会議で暫定リストへの登録が確定する。

暫定リスト候補にみる今後の課題

残る27件(表2)は、提案書の主題を基に準備を進めるべきもの(カテゴリーIa)、主題に関する調査研究を行い、一定の方向性が見えた段階で準備を進めるべきもの(カテゴリーIb)、主題の再整理、構成資産の組み換え、比較研究等を要するもの(カテゴリーII)に分類された。

2006年度に始まった、文化遺産の暫定リスト改定作業はこれで終結する。一連の作業を通じ、各地方自治体の遺産に対する意識は広がったが、日本が世界にどのようなメッセージを送るべきかの議論は今後も深める必要がある。

なお自然遺産は、林野庁と環境庁の共同委員会により、2003年に暫定リスト候補に上がった3件のうち、知床が2005年に世界遺産に登録、2007年に小笠原諸島が暫定リストに登録され、現在、琉球諸島の調査が進んでいる。

2006年度に始まった、文化遺産の暫定リスト改定作業はこれで終結する。一連の作業を通じ、各地方自治体の遺産に対する意識は広がったが、日本が世界にどのようなメッセージを送るべきかの議論は今後も深める必要がある。

なお自然遺産は、林野庁と環境庁の共同委員会により、2003年に暫定リスト候補に上がった3件のうち、知床が2005年に世界遺産に登録、2007年に小笠原諸島が暫定リストに登録され、現在、琉球諸島の調査が進んでいる。

琉球諸島の調査が進んでいる。